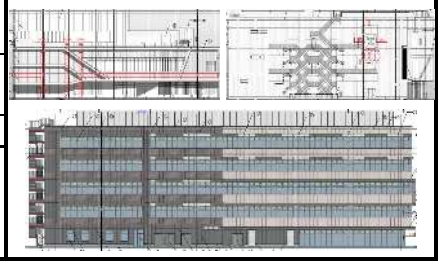
CASBEE®さいたま2016年版 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEEさいたま2016年版　■使用評価ソフト：CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要

建物名称	桜木PPJ	階数	地上2F,地上3F,地上5F
建設地		構造	S造
用途地域	第2種住居、準防火地域	平均居住人員	800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,物販店,集会所,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月　予定	評価の実施日	2025年3月6日
敷地面積	18,027 ㎡	作成者	
建築面積	8,394 ㎡	確認日	2025年3月6日
延床面積	25,131 ㎡	確認者	

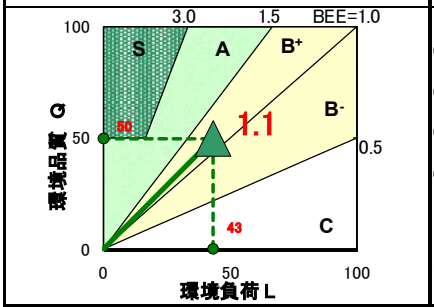
1-2 外観



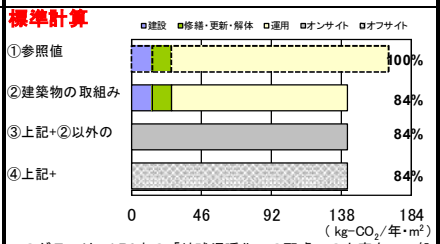
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★

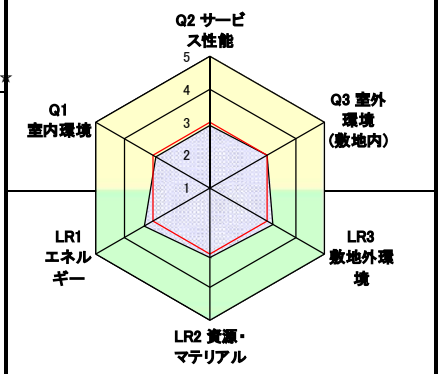


2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

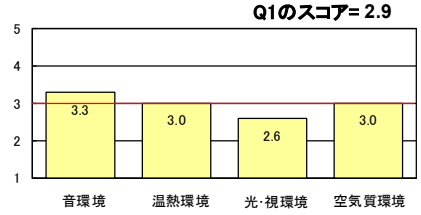
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



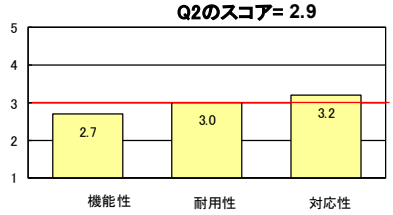
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 2.9

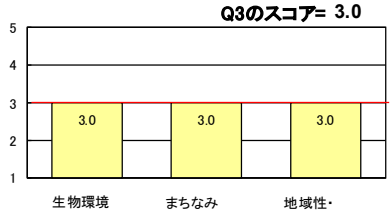
Q1 室内環境　Q1のスコア= 2.9



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.9

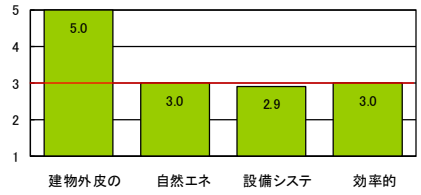


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.0

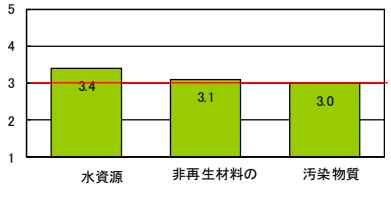


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.2

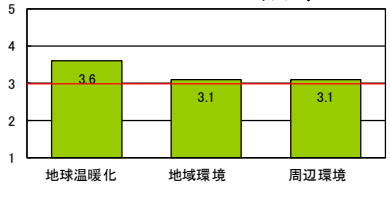
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.3



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.1



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.2



3 設計上の配慮事項

総合
CO2排出率の減少のために努力している。

その他
特になし。

Q1 室内環境
室内環境の向上について、
遮音性能T-3の建具を採用している。

Q2 サービス性能
建物の長寿命化について、
耐用年数が長い仕上材と配管材を使用している。

Q3 室外環境（敷地内）
特になし。

LR1 エネルギー
BPIm：0.66、BEIm：0.81

LR2 資源・マテリアル
エコの対策について、
節水便器と自動水栓を採用している。

LR3 敷地外環境
駐輪・駐車のスペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
桜木PPJ

■使用評価マニュアル：CASBEEさいたま2016年版
　欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト：CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								**2.9**
Q1 室内環境					**0.40**		-	**2.9**
1 音環境				**3.3**	0.15	-	-	**3.3**
1.1 室内騒音レベル				**3.0**	0.40	-	-	
1.2 遮音				**4.2**	0.40	-	-	
	1	開口部遮音性能	S棟：T-3、O棟：T-3	4.6	0.77	-	-	
	2	界壁遮音性能		3.0	0.23	-	-	
	3	界床遮音性能（軽量衝撃源）			-	-	-	
	4	界床遮音性能（重量衝撃源）			-	-	-	
1.3 吸音				**2.1**	0.20	-	-	
2 温熱環境				**3.0**	0.35	-	-	**3.0**
2.1 室温制御				**3.0**	0.50	-	-	
	1	室温		3.0	0.41	-	-	
	2	外皮性能		3.0	0.22	-	-	
	3	ゾーン別制御性		3.0	0.36	-	-	
2.2 湿度制御				**3.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				**2.6**	0.25	-	-	**2.6**
3.1 昼光利用				**2.1**	0.36	-	-	
	1	昼光率		1.0	0.42	-	-	
	2	方位別開口			-		-	
	3	昼光利用設備		3.0	0.58	-	-	
3.2 グレア対策				**3.0**	0.15	-	-	
	1	昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度				**3.0**	0.12	-	-	
3.4 照明制御				**3.0**	0.37	-	-	
4 空気質環境				**3.0**	0.25	-	-	**3.0**
4.1 発生源対策				**3.0**	0.50	-	-	
	1	化学汚染物質		3.0	1.00	-	-	
4.2 換気				**3.0**	0.30	-	-	
	1	換気量		3.0	0.41	-	-	
	2	自然換気性能		3.0	0.19	-	-	
	3	取り入れ外気への配慮		3.0	0.41	-	-	
4.3 運用管理				**3.0**	0.20	-	-	
	1	CO_2の監視		3.0	0.43	-	-	
	2	喫煙の制御		3.0	0.57	-	-	
Q2 サービス性能				−	**0.30**	-	-	**2.9**
1 機能性				**2.7**	0.40	**1.0**	1.00	**2.7**
1.1 機能性・使いやすさ				**3.0**	0.40	-	-	
	1	広さ・収納性		3.0	0.12	-	-	
	2	高度情報通信設備対応		3.0	0.12		-	
	3	バリアフリー計画		3.0	0.76		-	
1.2 心理性・快適性				**2.1**	0.30	**1.0**	1.00	
	1	広さ感・景観	S棟物販天井高：3.75m、O棟天井高：2.8m	4.4	0.22	-	-	
	2	リフレッシュスペース		3.0	0.22		-	
	3	内装計画		1.0	0.56	1.0	1.00	
1.3 維持管理				**3.0**	0.30		-	
	1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
	2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				**3.0**	0.30		-	**3.0**
2.1 耐震・免震・制震・制振				**3.0**	0.50		-	
	1	耐震性（建物のこわれにくさ）		3.0	0.80		-	
	2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**3.6**	0.30		-	
	1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	F,S,O棟共通、耐用年数20年以上の仕上げ材を使用。	5.0	0.10		-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	F,S,O棟共通、2種類以上に等級Bを使用、Eは不使用。	5.0	0.20		-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				**2.4**	0.20		-	
	1	空調・換気設備		1.4	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
	3	電気設備		3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			3.7	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	S棟階高：3.9m以上、O棟階高：3.7m以上	4.5	0.48	-	-
	2	空間の形状・自由さ		3.0	0.52	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-
Q3 室外環境（敷地内）				–	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.2
LR1 エネルギー				–	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI]／[BPIm]＝0.66	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI]／[BEIm]＝ 0.81	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	
	4.1	モニタリング			-	-	-	
	4.2	運用管理体制			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			F,S,O棟共通、節水便器と自動水栓を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			－	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			F,S,O棟共通、仕上げ材の下地に軽量鉄骨を使用。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				–	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			CO2排出率：84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	F,S棟：駐輪スペースを確保。F,S,O棟：駐車スペースを確保。	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	0.50	-	-	
	2	振動		3.0	0.50	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制			-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	F,S,O棟共通、光害対策ﾁｪｯｸﾘｽﾄは一部達成、広告物照明は不使用	4.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	